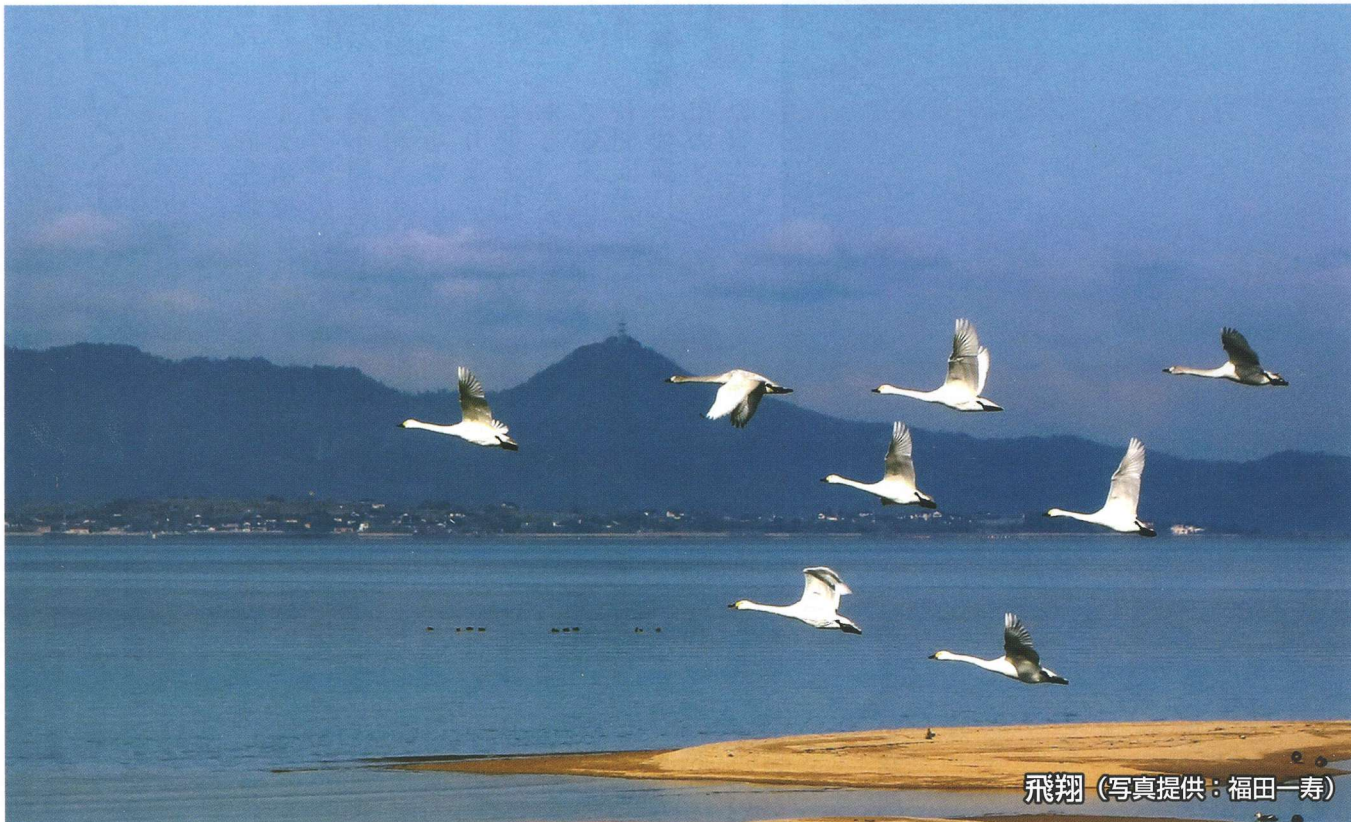


おおぞら

第25号

・発行
安来地区保護司会
・事務局
やすぎ更生保護サポートセンター
安来市安来町 1931-1
TEL (0854) 26-4181
題字 佐々木 實



飛翔 (写真提供: 福田一寿)



安来市長
田中 武夫

皆様には、日頃より、犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けて大変ご尽力いただいておりますことに深く敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の長期化に伴い、保護司の皆様におかれましては、対面活動の自粛などにより各種行事や訪問活動が制限され、ご苦労されていることと思います。

さて、安来市では、「第3期地域福祉計画」において、超高齢社会、人口減少、複合的な支援を必要とする人が増加する中、社会構造や暮らしの変化を踏まえ、「地域共生社会」の理念に基づき、地域住民や地域の多様な主体が地域の課題を包括的に受け止め、課題解

決に参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えてつながることが重要であると考えています。

犯罪や非行をした人の中には、様々な生きづらさを抱え、立ち直りに多くの困難を抱えている方もいます。そうした人たちの更生を図るには、その生活の場である地域社会の人々の温かい理解と援助が不可欠であり、社会復帰促進のためには、就労、住宅確保、保健医療、福祉などの支援を関係機関が協力連携して行うことが必要となります。

こうしたことも踏まえ、安来市では再犯防止等の推進のため、地域が一体となって罪を犯した人の再犯を防止し、安心・安全な明るい社会づくりを行ってまいりますので、安来地区保護司会の皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、犯罪や非行のない明るい社会に向け、皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

第72回

社会を明るくする運動

去る7月6日(水)、『第72回社会を明るくする運動』令和4年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」安来市推進大会」を安来市総合文化ホールアルテピアにて開催しました。

この大会は毎年7月が社会を明るくする運動強調月間と位置づけられることなどを踏まえて、犯罪や非行のないまちづくりを推進するために毎年この時期に開催しています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アルテピア会議室での縮小開催でしたが、本年は令和元年以来3年ぶりとなる小ホールでの大会開催となりました。当日は天候にも恵まれ、約50人の参加があり、大会実施委員長である安来市長の挨拶、そして秋間安来地区保護司会会長の挨拶に続き、内閣総理大臣のメッセージや県知事・県警本部長・県教育長連名

発信の青少年非行・被害防止メッセージを実施委員長が受信しました。さらに、前年の「社会を明るくする運動」作文コンテストにおける受賞作品である、桑原真知さん(赤江小学校卒業生)の「ゆうかいなどの被害にあわないために」と、野坂ちひろさん(第一中学校)の「おもてなしの心」が朗読披露されました。

そして地域社会における課題について意識の共有を図り、大会宣言を採択して第一部が閉会しました。おわりになりましたが、大会開催に際して安来地区保護司会の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

(大会実施委員会事務局)



心に残るペペの歌声

安来地区保護司会 会長 秋間近夫

第一部に引き続き、第二部として、ペペの記念コンサートを開催することができました。

令和元年に中国地方更生保護大会が鳥取市で開催され、記念講演でペペのコンサートに初めて出会いました。

市民の皆さんにも知ってもらおうと連絡を取りました。残念ながらコロナで2年間実現しませんでした。が、やっと念願のコンサートができ、いろんな方から彼女たちの活動を応援したいと励ましの声が届いています。



翌年の令和2年の安来市の社明大会に是非ペペさんに来てもらう、このような更生保護の世界があることを



「Paix2 (ペペ) 記念コンサート」

“社会を明るくする運動” 作文コンテスト

第72回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、小学校6校43作品、中学校5校258作品の出品がありました。審査の結果、小学生の部で赤屋小学校6年生の川上知穂さん、中学生の部で伯太中学校2年の神谷笑花さんが安来地区保護司会会長賞に選ばれました。おめでとうございます。

小学生の部 優秀作品

安来地区保護司会会長賞

平和を願って

〜今、私達にできること



立市来
赤屋小学校6年
川上 知穂

今、世界は平和だと言えるだろうか。私はそうは思わない。

今年の2月24日、戦争が起きた。今まで、災害やこわい事件など問題はあったが、戦争という言葉が聞いたことはなく、平和だと思っ

ていた。でも、その平和が一気にこわれた気がした。ウクライナとロシアの戦争が始まり、たくさん命がうばわれた。私と同じ小学生や私よりも小さい命もうばわれた。

なぜ、何も悪いことをしていない私達みたいに幸せに暮らしていた人の命がうばわれなければならないのか。今まで一緒に遊んだり笑い合ったりしていた家族や親友を失う気持ちを考えたことがあるのか。私が、この戦争を止めることはできない。でも、そんな戦争のない平和な世界につながる自分ができる身近なことはあると思う。

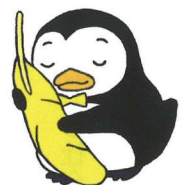
私達が、今学校で行っていること。一つ目はあいさつ運動。あいさつはできて当たり前だと思おう。「おはよう」や「こんにちは」な

どのあいさつはとても素直にできていて、お互いに気持ちよく学校生活を送ることができている。でも、最近できていないと思うことがある。それは、あいさつの言葉の一つ「ごめんね」を素直に言うこと。例えば、友達とケンカしたときには、なかなか素直に、「ごめんね。」

が言えない。そんなときは、まず相手の気持ちを考えることが大切だと思う。どういう気持ちなのか、全て分かるとは思わないけれど、ケンカしている自分の気持ちとは同じだと思う。そして、相手の気持ちを理解したら、次は自分をコントロールする時間。どれほどイライラしているか分からないけれど、そこで自分をコントロールし、「ごめんね」という言葉を使ったとき、ケンカはおさまると思う。だから「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんね」などのあいさつの言葉は、人と人を結び付ける第一歩だと思う。それが、国と国を結び付けることにもつながると思う。

二つ目は、花咲き山の活動。それは、友達のいいところ、すごいところを見付けて、花形の用紙に書いて全校のみんなに見てもらおう取組だ。友達のがんばりを見付けられるし、自分のがんばりを見てもらうことができる。メッセージを読むと、自分も幸せな気持ちに

なるし、友達も笑顔で見ているので、これもあいさつと同じで、心を結び付けることにつながると思う。



三つ目の取組は、自分達で調べた世界で起きている問題や、それについて考えたことを発信すること。私は去年、黒人差別について調べた。警察官の上司が部下に、「お前は、肌の色が黒いから、黒いマスクを付けているとわかりにくい。黒いマスクを付けるのをやめろ。」と言われたという内容だった。私はおかしいと思いい、そのことを学習発表会という場で、保護者や地域の方に聞いてもらうことができた。

また、学習発表会の後に、自分達で作ったお米を地域の方に買ってもらう、そのお金をユニセフに募金することができた。一人でも多くの子どもが助かってほしいと願った。

こんなふうに、私達が今取り組んでいることが、ウクライナとロシアのような戦争をなくし、平和につながってほしいと思っっている。そして、もっともつと明るい社会になってほしいと願っている。

中学生の部優秀作品

安来地区保護司会会長賞

あいさつの重要性



安来市立
伯太中学校2年
神谷 笑花

皆さんはこれだけ大切にしないといけないと思うことはありませんか。私は挨拶が大事だと思います。

朝起きた時、友達に会った時は「おはよう」、授業や部活を始める時は「お願いします」、ご飯を食べる前は「いただきます」、ご飯を食べ終わった後は「ごちそうさまでした」、寝る時は「おやすみ」。この一日の流れは挨拶で始まり、挨拶で終わります。そして挨拶は人と関わる上での第一声であり、直接的に感謝の気持ちを伝える言葉にもなります。このように挨拶にも様々な言葉があり、多くの意味を持っているのです。

挨拶がなければ会話が成り立たない、日頃から私たちはこのように挨拶を口にしていくのです。挨拶は心を開く、つまり自分の

存在を認めてくれているという事です。相手がいるとわかったから挨拶をしよう、声をかけようと思

います。だからあまり話した事のない人も勇気を持って声をかけることが大切です。ですが私も実際、仲の良い人しか挨拶をしていませんでした。自分からは恥ずかしくてとても勇気がいりません。話したことの無い人だと緊張して話しかけづらく「無視されたら」「迷惑だったら」と考えてしまいます。ですが挨拶をされて嫌な気持ちになる人はいないでしょう。また挨拶をしても誰も損をする人はいないと思います。挨拶をされた人もした人もみんな笑顔になり、お互いに元気が出ます。たった一言でみんなが笑顔になり、社会が明るい方向へ変えていく事が出来るのではないのでしょうか。

学校に登校する時、地域の方が毎朝挨拶をして下さっています。本当に嬉しくて今日も頑張ろうという気持ちになります。下校時地域の方が「おかえり」と言ってく下さって地域の方の温かさを感じます。このように何気なく発した挨拶の言葉でも私にとってはすこ

く元気づけられるものです。

私は部活でソフトテニスをしています。ソフトテニスは外でするスポーツなのでよく下校する生徒や保護者の方、先生方を見かけます。その度「こんにちは」「さようなら」というように挨拶をすることを心がけています。私たちが挨拶をすると、ほとんどの人が返してくれます。すごく嬉しいし、気持ちが良いです。そして自分に自信が持てる気がします。私はこの部活を通して挨拶をした時の嬉しさや喜びを少しは知ることができました。

挨拶は私たちの暮らしの中で一番使われている言葉です。また世界に共通、通用するコミュニケーションでもあります。つまり、挨拶は当たり前のように言っている言葉であり人と関わる上では重要だということです。

ですがただ、挨拶をするだけではいけません。相手に自分の気持ちをちゃんと伝える事が大切だと思います。そのためにはまず、笑顔を作る、相手の目を見る、適度な声の大きさで、そして自分からする事が必要です。挨拶の仕方一つで相手の受け止め方が変わってきます。そして「継続は力なり」ということわざがあるように挨拶を続ける事も大切です。

これはどんな事でも継続し続けていく事が成功の重要な要因であ

ります。コツコツと努力していけばいつか必ず目標は達成できるという事です。挨拶を続けることは色々な事に自信がついてきて、みんなが笑顔に明るくなると思います。

挨拶をする理由の多くは、人のコミュニケーションをとって人間関係を円滑にしたりその場の雰囲気や印象を良くしたりするためだと思います。また人として挨拶をするという事は基本のマナーです。

私はこのように挨拶を通じて少しでも多くの人と関わりが持てたら良いと思います。

私は挨拶をする意味や重要性などをしっかりと考え、理解した上で言うのと今までしてきた以上にきつともっと素晴らしいものになると思います。

そして伯太中学校は「挨拶が自慢の学校」です。だからこれからもその伝統を壊さないように、少しでも挨拶の意味を考えながら挨拶をする事を心がけていきたいです。

私たちの挨拶で少しでも社会が明るく、平和になることを願っています。



更女だより

安来更女の 新たなスタート

安来地区更生保護女性会

伊達山 裕子



安来更女は、新会長の子ども食堂「ほっこりサロン」をしたいたいという強い願いに賛同して、実現に向けていろいろ取り組みを行ってきまし



まずは企画会議を立ち上げ、夏休みに行う予定でした。でも、コロナの影響で延期せざる得なくなり、それを会員交流会に変更しました。これも新たな取り組みで、楽しい会でした。

そして、PRイベントとして「はぐくみものがたり」に安来更女として初参加もしました。

本番は、12月26日にJ A安来南支店で行う予定です。



安来更女の会員で力を合わせるだけでなく、いろいろな方や団体にご協力いただけることをとてもありがたく思っています。

伯太 コロナ禍での研修

伯太地区更生保護女性会
赤名 佐代子

コロナ禍で辛うじて募金活動はできたものの研修等はなかなかできない状況でしたが、今年井尻支部では短時間ながら研修を行いました。

井尻駐在所と安来署生活安全課のおまわりさんに、犯罪の発生状況や防犯対策についてお話をいただきました。大切な二大対策は、「鍵を掛ける」と「不審な電話やメールに気を付ける」という事でした。不審な電話やSMSは、私の経験から発信者番号を検索するとだいたいの詐欺かどうか分かります。そして「国税庁」「当選番号」「最終警告書」「利用停止予告」「〇〇重要なお知らせ」等は怪しいメールのことばのようです。また、電話は常に留守番電話にしておく事も対策の一つのことでした。会員が聞いた話を自治会等に持ち帰り広めていただき実践する事で、犯罪を未然に防ぎ犯罪者を生み出さないようにしていく事が更生保護に繋がると感じました。

残念ながら、会員間の情報交換はできませんでした。ウイズコロナでの活動は今後何が出来るかが課題ではないかと思っております。

広瀬 継続は力なり

広瀬地区更生保護女性会
岡崎 憲枝

いつ抜けきることができるのかコロナトネル…。広瀬更女もこんな中、唯一活動を継続している「愛の図書」。今年も会員の努力と地域の協力で集まった善意を保・小・中学に届けられたことに安堵を覚える。継続は力なりである。

登校時の見守りも会員の中では大きな活動の一つ！秋も深まり身を縮めて歩く子、大きな声で「おはようございます！」笑顔を見せてくれる子などさまざま。

社明の作文コンテストで、『地域の人からあいさつされても恥ずかしくてなかなか返すことができない。でも家族だけでなく地域の人たちも見守ってくれている。私もそんな大人になりたい。』このように思ってくれる児童がいることに嬉しさを感じ、また明日も頑張ろうと思うこの頃である。

更生保護を支える ボランティア団体

◎更生保護女性会

女性としての立場から、地域社会の犯罪予防活動と犯罪を犯した人の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体です。

◎BBS会

様々な問題を抱える少年・少女と、兄弟のような身近な存在として接しながら、悩みを聞き相談にのり、健全育成に協力しています。

◎協力雇用主会

犯罪・非行の前歴のために定職に就くことが容易でない刑務所出所者等を、その事情を理解した上で雇用し、改善更生に協力する民間の事業主の方々とす。

◎保護司

保護司は、犯罪を犯した人や非行に陥った人の立ち直りを地域社会の中で支えるボランティアです。

◎保護司の活動

- 犯罪や非行をした人の立ち直りを助けるための見守り、指導、相談支援
- 刑務所や少年院にいる人が帰ってくるための、住居・就労先などの生活環境の調整
- 地域住民や学校等における犯罪や非行を防止するための啓発活動
- 更生保護に対する地域の協力者の確保等



第22回「どじょうこカップ大会」

この大会は平成13年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で安来地区保護司会が「社明運動」の一環として共催しています。今年も昨年同様、コロナウイルスの影響で各競技とも実施するに当たっていろいろと苦慮されたようです。このような状況の中、安来市内を中心に近郊のチームの参加を得て、熱戦を展開しました。

野球大会

昨年はコロナウイルスの影響で、参加チームを減らして行われましたが、今年度は例年並の参加を得て実施されました。10月22、23日にあらえつさ球場を主会場に熱戦が繰り広げられました。その結果、優勝は美保レジエンズと広瀬スタツ



グス、準優勝は義方スポーツ少年団と城西レツドスターズでカップとメダルが授与されました。

今年度は、コロナウイルスの影響で、大会がなくなったり、規模を縮小したりして行われることが多かったようです。そんな状況の中、子どもたちに、できるだけのつも通りの大会ができるようスタツフの皆さんが一丸となって準備、運営に当たっておられる姿に強く胸を打たれました。



剣道大会

規模を縮小して11月19日に情報科学高校を会場に開催されます。

顕彰式典で表彰

11月2日に松江くにびきメッセで令和4年度島根県更生保護顕彰式典が開催され次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

●全国保護司連盟

理事長表彰

小池 清水

●中国地区更生保護

委員会委員長表彰

細田 美佐子

少林 浩道

葉田 茂美

●中国地区保護司連盟

会長表彰

永島 均

●松江保護観察所長表彰

勝部 幸治

宮廻 郁丸

山崎 幸子

●島根県保護司会連合会

会長表彰

伊達山 裕子

細田 由紀子

山崎 道弘



安来地区保護司会 役員名簿

(令和4年11月1日現在)

会長 秋間近夫(伯太)

副会長 矢田博美(安来)

常任理事 岩崎哲久(安来)

理事 岩崎美枝子(安来)

〃 原 玉子(伯太)

〃 池上幸秀(広瀬)

理事(事務局長) 小村修司(安来)

理事(事務局次長) 少林浩道(広瀬)

理事(協会担当) 安部良江(広瀬)

監事 倉本洋子(安来)

〃 岩田京子(広瀬)

部会名簿

(令和4年11月1日現在)

総務部会

秋間 近夫

矢田 博美

原 玉子

安部 良江

研修部会

岩崎 哲久

妹尾 秀樹

勝部 幸治

山崎 幸子

犯罪予防部会

上田 宏充

細田美佐子

柏 真知子

楢野 光伸

藤島 義信

協力組織部会

宮廻 郁丸

原瀬 清正

伊達山裕子

倉本 洋子

小池 清水

岩崎美枝子

少林 浩道

小村 修司

山崎 道弘

中村貴代美

永島 均

葉田 茂美

藤井 裕子

今井 昭紀

細田由紀子

山崎 光恵

遠藤 史則

佐瀬 宏洋

岩田 京子

池上 幸秀

編集後記

昨年度より、更生保護活動について広く市民の皆さんに知っていただくために、保護司会の機関誌「おおぞら」の全戸配布をさせていただいております。ご一読いただければ幸いです。

